



ワイアードテールズ 5
那智史郎・宮壁定雄編
国書刊行会
(5 / 5 刊・¥1950)

ワイアードテールズ(WT)傑作選(全五巻/別巻一)の最終巻である。四〇年から五四年までの作品を集めたもの。もうこの年代に入ると、例えばキャンベル編集のアスタウンディング誌やアンノウン誌がスタートしているから、WTも時代の雰囲気と合わなくなってきた。いわゆる「バルブ」雑誌自体が消えていこうとしていた。そんな中での、魔刊までの傑作選である。

ライバー、ウェルマン、ブラッドベリ、スタージョンら、この時代にふさわしい顔触れが並んだ。とはいえ、これらの作家が、WTの代表格かという点、やや問題があつて(ウェルマンを除けば)一時期寄稿していたこともある、程度と考えるべきだろう。

さて、本書の中では(と書いているところで、死去のニュースが伝わってきた)、スタージョンの中篇「憑きもの」が注目作。病院での奇妙な自殺事件にはじまる物語は、心理サスペンス風の展開を見せて、最後はSFになる。アイデアは、今ではさしてめずらしいものではないけれど、スタージョンらしい描写が楽しめる。他の作品に比べても、古めかしさはあまりないようだ。